

2023年度 大分ケーブルテレコム株式会社 放送番組審議会 議事録

開催日時：2024年3月21日（木）16:00～17:30

場 所：ホテル日航大分 オアシスタワー20階宴会場「アトラス」

出席者：委員：囑託委員6名中4名出席 ※敬称略、順不同

《委員》

渡邊 教和 （大分トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長（CEO））
伊藤 研 （NBU日本文理大学 工学部 情報メディア学科 元教授）
高橋 淳子 （大分市男女共同参画センター所長）
大戸 朋子 （公益社団法人 大分県看護協会 会長）
三島 康典 （社会医療法人 三愛会 理事長）
大野久美子 （大分市企画部広聴広報課 参事補）

《放送番組審議会事務局：5名出席》

荒木 節夫 （代表取締役社長）
小野まゆみ （メディアコンテンツ本部 本部長）
高橋 康史 （メディアコンテンツ本部 副本部長）
渡邊 寛章 （メディアコンテンツ本部 コンテンツ制作グループ グループ長）
工藤 友美 （メディアコンテンツ本部 コンテンツ制作グループ）

目次

- 1、新委員紹介
- 2、開会事務局挨拶
- 3、メディアコンテンツ本部概況報告（VTR：4分57秒）
- 4、自主制作番組・番組編成方針説明「ひるドキ!!おおいた」（VTR：13分20秒）
- 5、審議



1、新委員紹介

三島 康典氏（社会医療法人 三愛会 理事長）

大野 久美子氏（大分市企画部広聴広報課 参事補）

2、開会事務局挨拶（大分ケーブルテレコム株式会社荒木代表取締役社長）

「短い時間ですが忌憚ない意見をいただき弊社の番組をよりよいものにしたい」と挨拶。以下の内容の報告を行った。

（1）会社概要

- ・JCOM株式会社／大分ケーブルテレコム株式会社について概要を説明。

（2）地域連携の取り組み

- ・プロギング活動（ジョギング×ごみ拾い）
- ・農園プロジェクト
- ・サイクルロゲイニングについて
- ・募金オンデマンドの募金活動

【地域連携の取り組み：防災・安全】

- ・19年10月～ 大分南警察署との防犯協定
- ・23年 3月～ 大分県警察との協定
- ・23年 7月～ 大分県警察より「特命チャリ系ポリス」受嘱
- ・24年 1月→ 大分県警察より感謝状授受

【行政】

- ・21年 GIGAスクールのネット環境整備
- ・21年9月 大分市水害監視カメラシステム
- ・23年4月 九重町にポータブル電源を贈呈
- ・23年9月 水位監視ソリューション 実証実験

3、メディアコンテンツ本部概況報告（小野本部長）【VTR：4分57秒】

VTRにて、昼の情報番組「ひるドキ!!おおいた」自転車ぶらり番組「友チャリ」トリニータ応援番組「ガチトリニータ」や「府内戦紙」など特別番組について紹介。

それに加え、以下の通り報告した。

- ・新番組「キンコンカンコン」についてー

大分県内の高校・生徒の皆さんの様子を毎月1回紹介し、来年度も継続予定している。

- ・そのほかー

NHK&民放各社と連携を積極的に行い、番組のレベルアップ・当社の番組周知により大分県全域の情報発信し、情報と人と人をつないだ価値などを生み出している。

4、自主制作番組・番組編成方針説明「ひるドキ!!おおいた」(渡邊グループ長)

(VTR：13分20秒)

事前にお配りしたVTRのダイジェスト版を放映した上で以下の内容を紹介。

今年で6年目の放送となる「ひるドキ!!おおいた」

前身の「もぎたて情報局」から続く昼前の生放送番組で、4月にリニューアル。

「皆様に笑顔とときめきをお届けします」をテーマに県内の気になるニュース・教養・スポーツ・お役立ち情報を網羅した「地域密着の情報エンタメ番組」を目指している。

リニューアルに伴い、番組セットやロゴを刷新したほか

大分合同新聞社・OBSラジオとの共同企画など様々な新企画を立ち上げ

この一年間放送を続けてきた。

5、審議

高橋委員の進行で審議が以下の通り行われた。

委員：楽しく視聴した。自転車に乗るので番組をみてみたい

(1)「トキハ物産展」のリポーターの服装が雑だと思った

(2)スポーツについてリポーターの口調が気になった(ため口)

事務局：(1)についてご指摘の通り。

外部のスタッフにお願いしているとはいえ、指摘ができていないところがあったので、気を付けたい。

(2)取材対象者である子どもから素の言葉を引き出したいという思いがあったが、放送処理の段階で視聴者を不快に思わせない工夫が必要だと思った。

委員：放送時間帯が11時～12時ということだが、

(1)視聴ターゲットはどの層を考えているのか。司会は明るく回っていて好印象。

スポーツコーナーにおいて、隠れた努力の部分も取材しており、

華やかな裏側を見ることができて良かった。

(2)今後取材対象を広めていくのか。(3)対象者の決定はどうしているのか。

そのほか、姫島村の観光スポットを短時間で回っていて、観光誘致を促進できていると感じた。(4)姫島に行ったことのない高齢者を対象にした紹介があってもよいのでは。

視聴者メッセージ紹介の場面では、視聴者がどんな風に紹介してもらえるのか楽しみだと思う。また、プレゼントもあるので視聴率向上につながる感じた。

事務局：(1)当初はF3層をターゲットにしていた。今は、夜の再放送も行っていることやYouTubeにもアップロードしており、年齢層を広げる感覚で進めている。

(2)(3)成績が良いだけでなく、裏にあることを一緒に描ける方を対象に選んで

いる。スポーツは競技を超えた繋がりもあるので、口コミや雑誌記事などから情報収集を行っている。今後もそういった対象者があれば、年代問わず広めていきたい。

(4)ご指摘の通り、高年齢層も楽しめる内容も取り入れていきたい。

委員：全体的にスタジオがポップで、セットも声もかわいい。

掛け合いのテンポがいい。

スポーツコーナーは、普段の練習だけではなく、家での自主練習・校長先生のインタビューなども細かく取材していてよかった。姫島村を取り上げる場面では、グルメ・観光スポットももう少し見たいと思った為、自身が調べるきっかけになった。

委員：面白い番組にもかかわらずテレビ離れが進んでいる。

「地域の価値に」というところが他にない丁寧な地域とのかかわりを感じて農業に着目されていることなど、大分県ならではのものに注目すると注目されると感じた。VTR中には、SDGsの取り組みについてもあったが、17のアイコンが配布の媒体資料などあまり出てこないと感じた。

自転車に乗られている方が増えているので、

そういったことに注目していると盛り上がると思う。

駅前の中心部にスタジオがあるので、公開スタジオになるとより良いのでは。

事務局：スタジオ活用において行政との連携などもあり、積極的に行いたいと思っている市民に使ってもらえるようなスペースになればと感じており、

Wi-Fiベンチなども設置できないかと考えている。

ネーミングライツを獲得しているので、活用していきたい。

事務局：加入者様以外だとチャンネル内容が周知いただけていない。

ご指摘の通りテレビ離れもあり、オンデマンドの時代が変わっている。

民放3社と同じことをやっても意味がない。視聴率が第一ではなく、出演者がみてるような媒体を作りたい。そうしたことから、民放各社と連携した取り組みを進めている。

委員：朝の情報番組は、首都圏の話題しかないので、地元の情報が少なく感じている。

そこを補うのがケーブルテレビの役割の一つだと思う。

第2弾・第3弾があればいいと思う。

事務局：民放との一番の違いは全県カバーできていないことだが、ケーブルテレビとして全県の7割のカバー率は特殊。民放とうまく連携しながら各々の利点をどのよう

にチャンネルに活かしていけるのが課題。
テレビを見る時間がないこと、家族でテレビを見る時間がないこと、
コンテンツの高騰化が著しいこと（野球・サッカー・ゴルフのコンテンツ等）
などが問題にある。魅力あるコンテンツをどう生み出すのか。
頭を悩ませているところ。

委員：現在行っているNHKへの出演は、大分県の魅力が全県に伝わるのがよい。
リポーターの顔が見えると応援したくなる。
取材した人と対話してその人が出演すると親近感が沸き視聴につながるのでは。

事務局：NHKとのコラボレーションは、大分独自の取り組み。
みんな知っていそうで実は知らない大分の魅力を発信していきたい。

委員：夏の特別番組「府内戦紙」の生中継をずっと視聴している。
「水害監視システム」は、台風の時等に視聴している。
大分朝日放送（OAB）が行っているような「CM大賞」など参加型の番組も
できれば面白いと思う。

事務局：番組のみならず、生放送・収録を行っている「J:COMホルトホール大分のスタジオ」についてのご意見もいただきありがとうございます。スタジオの活用としては現在大分県警察と連携した「おおいた高校生交通安全S-1グランプリ」などで活用しているが、更なる活動も今後考察していきたい。貴重なご意見ありがとうございました。

以上